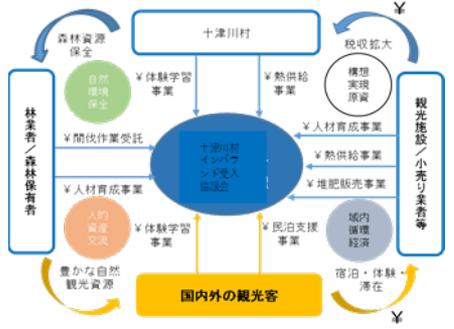


～持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想～

自治体名：奈良県十津川村（2018年度選定）

| | | |
|--|--|---|
| <h3>1. 地域の特徴と課題及び目標</h3> | <p>十津川村の人口は2,891人（2023年4月時点）、高齢化率47.3%と少子高齢化・過疎化が進んでいる村である。主要産業は、豊かな森林を活用した「林業」と熊野古道の世界遺産や、日本初の源泉かけ流し温泉など豊富な自然環境を活かした「観光業」である。本村は全国に先じて人口減少・高齢化が始まっており、祭りや普請の維持の限界、空き家や廃校施設などの増加、移動の不便など、我が国における地方創生を図るうえでの課題先進地となっているため、課題解決に向けて十津川村SDGsを構築していく。</p> | <h3>2. 関連するゴール</h3>  |
| <h3>3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)</h3> | <p>「十津川村SDGsモデル構想」を進め、主力産業の衰退課題の解決に向けて、林業・観光業の総合的な事業運営による産業の創出を図ることで、若者の移住促進、関係人口を増加させ、人口減少による担い手不足を解消し、豊かな自然環境の保全や限界集落を維持することが可能とするための、村づくりを進める。</p> | |
| <h3>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染が終息し、インバウンド旅行者数がコロナ前近くまで回復した。 ・ユネスコ無形文化遺産に登録された「十津川大踊り」を体験できるコンテンツ造成を行った。 ・森林施業に関するガイドラインを策定し、安全と環境に配慮した森林づくりに取り組んでいる。  | <h3>6. 取組成果</h3> <p>起業数 2015年 0件 → 2023年 2件 インバウンド旅行者の拡大 2019年 1329名 → 2023年1174名 空き家バンクの成約数 2019年 9件 → 2022年 8件</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 初めて奈良県フォレストアカデミーを卒業したフォレスターが着任した。 ◆ 昨年度整備した、中長期滞在できるワーケーション施設および移住体験住宅の利用者は20名だった。 ◆ 次世代につなぐ魅力ある地域の創造を事業理念として、SDGsへの貢献と観光を切り口とした持続可能な地域づくりをテーマにシンポジウム（十津川高校生が観光施策のアイデアを発表等）を開催した。 | |
| <h3>5. 取組推進の工夫</h3> <p>十津川村インバウンド受入協議会の自主財源確保のため、コンテンツの造成と流通をプロモーションを目的に観光庁の補助金「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」の採択を受け、ユネスコ無形文化遺産に登録された「十津川大踊り」を中核とした体験コンテンツ・P R動画を作成した。</p> | <h3>7. 今後の展開策</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・フォレスターが主導する奈良県が推進する恒続林施業等により森林の防災機能や生物多様性保全機能を発揮する森林施業を進める。 ・SDGsへの貢献と観光を活用した持続可能な地域づくり普及促進事業として十津川高校の生徒と一緒に考える。 ・温泉熱の有効活用、木質バイオマス燃料の活用や木材利用の促進に関する検討を進める。 | |
| <h3>8. 他地域への展開状況（普及効果）</h3> | <p>SDGs関連講義（奈良女子大学、奈良県立大学、立教大学） SDGs関連視察（JICA関西）</p> | |

SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

奈良県十津川村

2024年9月

SDGs未来都市計画名

～持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想～

奈良県十津川村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

| No | 指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号 | 当初値 | 2023年 | 2030年（目標値） | 達成度 （%） | 第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況 |
|----|-------------------------|------------|--------------|--------------|------------|--|
| 1 | 起業支援者数【8,8.2】 | 2018年 4件 | 2023年 2件 | 2030年 24件 | -10% | 目標達成度が低いため、認定創業支援等事業計画を推進し、起業家へのサポートをしっかりと行うとともに、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。 |
| 2 | 若者転入者数【11,11.3】 | 2019年 47名 | 2023年 59名 | 2030年 77名 | 40% | 目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。 |
| 3 | 林道の新規開設【13,13.1】 | 2020年 801m | 2023年 1,209m | 2030年 1,550m | 78% | 目標達成に向けて引き続き進捗を確認していく。 |

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

| No | 取組名 | 指標名 | 当初値 | 2023年 実績 | 2023年 目標値 | 達成度 （%） | 第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況 |
|-----|-----------------------------|-----------------------|----------------|----------------|----------------|------------|--|
| 1 | 林業と観光業の総合的な事業運営による産業創出 | 起業支援数 | 2019年 4件 | 2023年 2件 | 2030年 24件 | -10% | 目標達成度が低いため、認定創業支援等事業計画を推進し、起業家へのサポートをしっかりと行うとともに、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。 |
| 2 | 林業のブランディングによる差別化 | 「十津川郷土の家ネットワーク」加盟工務店数 | 2020年 6件 | 2023年 6件 | 2024年 8件 | 0% | 目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第3期計画では見直しを行う。 |
| 3 | 流通管理による最適な木材供給 | 十津川材を活用した年間建築工事件数 | 2018年 49件 | 2023年 8件 | 2024年 70件 | -195% | 目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第4期計画では見直しを行う。 |
| 4 | インバウンド旅行者の拡大 | インバウンド旅行者数 | 2019年 1,329名 | 2023年 1,120名 | 2023年 2,000名 | -31% | 第2期計画においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、目標達成率は低いが、引き続き第3期計画で進捗を確認していく予定。 |
| 5 | 新たな産業創出による若者移住促進 | 若者転入者数 | 2019年 47名 | 2023年 59名 | 2023年 77名 | 40% | 目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。 |
| 6・1 | 林業6次産業化の推進による従事者の確保（一次産業） | 従業員数 | 2018年 85名 | 2023年 73名 | 2024年 110名 | -48% | 目標達成度が低いが、林業振興のための補助金を拡充し第3期計画では引き続き進捗を確認していく。 |
| 6・2 | 林業6次産業化の推進による従事者の確保（一次産業以外） | 従業員数 | 2018年 22名 | 2023年 13名 | 2024年 40名 | -50% | 目標達成度が低いが、林業振興のための補助金を拡充し第3期計画では引き続き進捗を確認していく。 |
| 7 | 実践的な人材育成システム構築 | フォレスター数 | 2020年 0名 | 2023年 1名 | 2023年 2名 | 50% | 目標達成度が低いが、第3期計画では引き続き進捗を確認していく。 |
| 8 | 民泊による空き家／廃校施設の有効活用 | 空き家バンク成約件数 | 2019年 9件 | 2023年 8件 | 2024年 22件 | -8% | 目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。 |
| 9 | 森林保全による防災機能強化 | 林道の新規開設 | 2020年 801m | 2023年 1,209m | 2024年 1,550m | 54% | 目標達成に向けて引き続き進捗を確認していく。 |
| 10 | 景観の改善による観光人口拡大 | 観光客入込客数 | 2019年 730,638名 | 2023年 642,662名 | 2024年 825,000名 | -93% | 目標達成度が低いが、周遊観光バスを運行するなど、利便性を向上させるなど、入込客数確保に向けて第3期計画ではKPIの見直し、進捗を確認していく。 |
| 11 | 生物多様性の維持・確保 | シンボル種の選定と保全手法の開発 | 2019年 0種 | 2023年 10種 | 2021年 5種 | 200% | 目標が達成できており、第3期計画ではKPIを見直す予定。 |
| 12 | 流通一元管理によるリサイクルの促進 | 村内木材利用率 | 2019年 0.48トン | 2023年 0.19トン | 2023年 2.25トン | -16% | 目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第3期計画では見直しを行う。 |

奈良県十津川村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(3) 第2期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容

No.4 十津川村インバウンド受入協議会において、インバウンド旅行者数の増加施策と自主財源の確保に向けて、観光庁の補助金「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」の採択を受け、ユネスコ無形文化遺産に登録された「十津川大踊り」を中核とした体験コンテンツ及びPR動画を作成した。加えて、英語対応可能なローカルガイドの育成を行った。

●成果

No.7 実践的な人材育成システム構築において、奈良県と連携を図るフォレストアカデミーを卒業したフォレスターが十津川村に着任された。今後も連携を図りながらフォレスターの確保に繋げていく。

No.9 林業従業者の安全と環境の保全に配慮した林道の新規開設を着々と進めた。

No.11 十津川村環境保全審議会においてシンボル10種の指定を行った。今後は保全手法の開発に向けて議論を進めていく。

●課題

No.1 村内の起業支援数においては、事業承継の課題や新規起業者のための特定創業支援等事業の充実を図り、新たな産業創出に繋げていきたい。

No.3 十津川材を活用した年間建築工事件数、No.6-1、No.6-2林業事業員数の確保、No.12村内木材利用率の達成度が低い理由が、林業の6次産業化が思うように進んでいないため、第3期計画においては見直しが必要だと考えている。

No.4 インバウンド旅行者数については、コロナ前近くまで回復してきている。本村への旅の目的のほとんどは熊野古道であるが、宿泊キャパが足りずボトルネックとなっているエリアがあるので、2次交通を充実させ、宿泊者数の増加に繋げていく。

No.8 空き家バンク成約件数については、空き家は多く存在するが、すぐに住める空き家が少なく、相談件数は毎年30件以上あるがハード面に対応できていない状況であるため、空き家の改修補助金を充実し移住の受け皿を増やしていく。

No.10 観光客の入込客数については、コロナ禍以降徐々に回復傾向ではあるが、目標の達成度は低いため、入込客数だけではなく観光の指数を目標にする必要があると考えている。

●今後の展望

当初の計画では、林業6次産業化を掲げ、林業・木材産業の振興施策を推進することで、木材生産量・加工流通量において一定の成果をもたらしたが、なかなか2次、3次事業者への裾野を広げることが出来ない現状がある。ただ、村の基幹産業であることは疑いの余地がなく、引き続き林業の在り方については、森林（もり）づくり審議会で議論を継続していく。一方で観光業においては、コロナによる事業者への影響は多岐に及ぶ、加えて高齢化の波が直前に迫ってきている。既存産業の承継と新たな産業の創出の両面においても、移住者やUターンへの起業支援ならびに住環境整備はより重点的に推進する必要があると考えている。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・ブランディングや従業員数の確保等林業の活性化には工夫が求められているように思われる。

・全体的に目標達成度が低いものが多く、現状や今後の見通しを踏まえ、改めてKPIや指標の見直しを図られると良い。インバウンド旅行者の回復は好ましいことだが、オーバーツーリズムの対応や、林業・木材産業の振興を、その他産業振興へと波及させる方策に重きを置かれると良い。